

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104506
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム小野の里
所在地	鹿児島市小野2丁目10番18号 (電話) 099-220-7070
自己評価作成日	令和4年3月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事の参加や地域住民も参加可能な行事の企画を通じて、地域との繋がりに力を入れ、認知症であっても地域住民の一人として生活を続けていけるよう支援している。理念にも掲げている、入居者一人一人の思いに寄り添い、出来ることしたいことを尊重し、入居後もこれまでと変わらずに人との結びつきを大切に続けていけるよう支援している。
可能な限り個々の生活歴や趣味を継続していけるよう実施、近所や馴染みの場所への外出など行えるよう支援している。
職場環境においても、研修の充実、個別の面談や労働時間など、働きがいのある職場作りに努めている。また、職員一人一人が尊重し合い、楽しく働くことができるよう明るい環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、鹿児島市北西部に位置し、高速道路や主要道路などに近く温泉施設やコンビニエンスストアなどがあり買い物の利便性も良く、甲突川を渡って神社が近くにあり散歩が楽しめる閑静な住宅街である。事業所は、2階建てであるが玄関エントラに来訪者との面談や家族の面会などに利用されている。玄関には、ホームの理念や重要な諸揭示物が掲示されており、個人情報に配慮し書類などはよく整理整頓されている。

理念は、「利用者の尊厳や誇りを大切に」とあり、利用者の思いや意向の把握に努めながら、利用者のやりたいこと、できること、生きがいのある日々を過ごせるよう、“寄り添う”を意識しながら支援に取り組んでいる。また、評価を受けて見直しが行われ、地域を意識したものになっている。現在は、コロナ禍であるため外出は控えているが、天候を見ながら利用者の健康状態を把握し、本人の希望に沿い外出支援やレクリエーション活動を実施、個別のレク活動にも柔軟に取り組んでいる。

年1回は消防署立ち合いで災害訓練を実施、自主訓練もあり毎回、町内会には避難訓練への参加を呼びかけている。また、「社会福祉施設避難確保計画」があり、職員駐車場の一部が土砂災害急傾斜地区に指定されている。水害を想定した避難訓練の実施、水やレトルト食品などを備蓄している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示している。理念に掲げている「笑顔溢れる、地域に信頼されるホームを目指して」その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	理念は、「～笑顔あふれる地域に信頼されるホームを目指して～」を掲げ地域との交流を意識したものである。玄関などに掲示されパンフレットに掲載し意識づけをおこない、朝の申し送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響で地域との交流も自粛せざるを得ない状況ではあったが、コミュニティ協議会や玉江校区社会福祉協議会等には地域の一員として積極的に参加している。	町内会に加入して、回覧版を活用してホームの紹介をしたり地域のイベント事にも参加していたが、現在は双方とも自粛している。管理者は、認知症の理解を図るための研修会の役員を務めるなど社会貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族や地域の方々へのサービスに関すること、利用時のお手伝いや説明、案内等を行っている。また、認知症に対する理解ができるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小野の里だよりにて毎月、参加を呼びかけていたが、今年もコロナウイルス感染症を考慮し、入居者とスタッフのみの参加で開催した。	運営推進会議は、会議メンバーへの参加の呼びかけがあるが、コロナ禍に配慮し町内会長や民生委員、行政職員などの参加はなく各ユニット代表と職員での話し合いをおこなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で会議ができない状況ではあったが、市町村役場や地域包括支援センターへは、定期的に挨拶に行き、距離を保ちながらも情報交換を行っている。	市職員からは、電話で相談やアドバイスを受けており、担当者からのアンケート調査も多い。研修案内があり、オンライン研修に参加がある。援護係と連携を図り相互に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束委員会を開催し、各課題について検討し、参加できなかった職員へも資料を通して周知を行い、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	法人共通の指針があり、安全対策委員会や感染症対策委員会の毎月のミーティングへの参加があつて、身体拘束だけでなく、高齢者虐待防止についても触れ会議と研修を同時に開催している。成年後見制度利用者もおられることから、制度の理解や対応方法についてなど研修会で知識を研鑽し学ぶ機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止について委員会にて各議題の検討を行い、職員に周知し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者もおられ、身近なこととして理解している。事業所内での研修においても成年後見制度の理解をより深められるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族へ理解して頂けるよう、分かりやすい言葉選びや説明により同意を得ている。重要事項説明に変更があれば、事前に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が職員に対し意見や要望を伝えられるよう、傾聴する姿勢について指導を行っている。また、入居者や家族が気軽に意見や要望を伝えられるようご意見箱を設置し、定期的に検討、反映できるよう努めている。	利用者からは、日々の暮らしの中で直接意見や要望などを聞き取るよう努めており、家族とは、電話での情報交換や手紙のやりとり、ホーム便りに利用者の状況や家族へのお知らせを記載して情報提供した上で、面会時や電話などで意見交換をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングにて、職員間の意見を出し合う機会を設けている。全員で検討し、反映に繋げている。必要に応じてミーティング以外にも話し合う場を設けるよう努めている。	職員は、20代から80代と年齢層は幅広いが、管理者は職員の意見や要望を聞き取り職場環境や労働条件を整備し、無理なく働き職務に意欲が持てるよう働きかけている。各ユニットでのカンファレンスでは、運営に関しての話し合いがあり意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け、定期的に情報の提供、支援を行い、取得後は、向上心を持って働くことができるよう、労働条件や給与に反映できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的事業所内での研修を行い、ケアの質の向上を図れるよう取り組んでいる。また、意欲の向上に繋がるよう外部研修においても自分の興味のある研修に参加できるように情報の提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員一人一人のネットワークを広げられるよう、関連事業所や他事業所との研修にて、意見交換や交流ができる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面会に伺い、心配や不安な思いに耳を傾け共感できる姿勢で信頼関係を構築できるよう努めている。本人の言葉をそのまま記録に残し職員間で共有し、本人の意向を少しでも実現できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、家族の心配事や不安、サービス利用に関して分からない事の理解をより深め、入居後も、体調不良や何かあった時だけでなく、面会時に普段の様子や状況を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援が導き出せるよう事前にアセスメントにて情報の分析を行い、他のサービスも含めて望む暮らしに近づけられるよう努めている。訪問歯科や居宅療養管理指導などのサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人の出来る事を見極めながら、個別援助を行っている。職員も含め、入居者同士のコミュニケーションが図れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に入居者本位だということを念頭に置き、本人と家族の思いをすり合わせ、お互いが大切な存在であると感じ、絆を繋ぎ支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外部との接触に制限があり、外出も困難な状況にあるが、県外からの家族や親戚、友人など希望される方には電話やオンライン等を利用して交流が図れるよう実施している。	行きつけの美容院に行かれる方や訪問理美容の利用がある。面会は家族が多いが、ベランダで電話やタブレットなどを活用し面談している。携帯電話で自由に連絡を取る方もあるが、職員が電話の取り次ぎをしたり、手紙の代読などをして関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の下準備や洗濯物たたみを一緒にして頂くなど、入居者同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れるよう努めている。交流しやすい配置や環境、雰囲気作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去された入居者でもその後の状況を確認したり、入居者、家族共にこれまでと変わらず気軽に相談に来られる環境、必要に応じて情報提供を行い、関係性を繋いでいけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から得た情報は記録に残し、伝えることが困難な場合は表情や仕草から思いを読み取り、家族と共に検討し、本人の意向に沿ったケアマネジメントが行えるよう取り組んでいる。	本人との対話の中、失語症の方などは、家族からの情報を参考にしたり、質問して回答の候補を挙げた上で本人の気持ちに寄り添いカンファレンスなどで職員と意見交換して本人の思いに触れ本人本位に検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族への聞き取りやその後の関わりの中でこれまでの暮らし、生活歴や生活習慣を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態の変化を観察し記録に残し、必要時にはカンファレンスを実施。出来ないことや問題点だけではなく、できることにも目を向け、生活が活性化できるよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやカンファレンスで課題や意見を出し合いプランに反映している。また、家族へ状態を伝え、思いを聞き取りプランを作成している。	介護計画書は、家族には電話で計画の説明を行い面談で計画の同意を頂戴している。遠方の家族には電子メールに添付して説明し、介護計画書を郵送して同意をいただく方もいる。職員は、モニタリングを踏まえカンファレンスなどで話し合い、柔軟に見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活やケアを行う中で、表情や言動、気付いたことを記録し職員間で共有できるようにしている。往診や受診時での主治医からの指示や助言は別に支援経過や業務日誌に記録し、周知できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が行えるよう、公共機関問い合わせたり、インターネット検索などで情報を収集し、知り得た知識やアイデアを職員間で共有しサービスに活かし実践できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域の中で馴染みの方との関わりが途切れることがないよう、入居後も訪問理容やコミュニティ協議会への挨拶を心掛け、交流を図り関係性を保っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を利用の入居者が退院された後は、引き続き往診で状態を診て頂き主治医の指示を仰いでいる。家族が受診に同行される際は、事前に情報提供を行い受診結果を周知している。	協力医療機関への外来受診は職員が対応し、かかりつけ医の受診や他科受診は家族に依頼して情報共有を図っている。また、家族が対応する際は、書面にて事前に情報提供し協力医療機関とはオンコール体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日中約40分間、利用者から得た情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気付きがある時は、状況の把握が出来るよう記録に残し、往診や受診時に主治医に報告できるようにしている。緊急時は連絡し指示を仰げる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供のため介護サマリーを作成している。入院中直接病院へ入居者の状況を伺ったり、電話にて情報交換を行っている。退院前のカンファレンスにも参加し情報共有を行い、ケアプランにも反映している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所での看取りの体制、支援を行っていないことを説明し同意を得ている。家族と相談しながら可能な限り事業所での支援を行い、状態悪化があった際は、医療機関との連携、情報共有を行っている。	「重度化や終末期における介護指針」があり、契約時に事業所の方針を説明し同意を得ている。看取りを実施する体制がないため事業所でできるケアについて早い段階から話し合い十分なケアを行い本人や家族が納得できる最期が迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って対応できるよう勉強会を実施し、職員間で共有している。緊急連絡網を作成し、すぐに対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に行動できるよう消防署からの助言を受けながら定期的に消防訓練を行っている。緊急時対応マニュアルと緊急連絡網を作成し職員全員、把握している。	年1回は、消防署立ち合いにて避難訓練を実施、自主訓練もされ毎回、町内会長にも声かけし参加を呼び掛けている。「社会福祉施設避難確保計画」があり、駐車場の一部が土砂災害危険地区指定を受けているため、水害時の避難については意識が高く避難訓練を実施し、備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても入居者一人一人の人格や性格を理解し尊重することを基本とし、定期的に権利擁護の研修も行っている。入浴、更衣、排泄時には特に注意を払い、希望があれば同性介助にも配慮している。	職員は、年1回、個人情報や権利擁護制度などについての研修を実施している。申し送りは、利用者の視線などに配慮し場所を限定して実施している。人格や尊厳に配慮して言葉の使い方や対応には十分に配慮するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、自分の意思を伝えられない入居者に対しても、その方の表情や仕草、これまでの生活環境や習慣から思いをくみとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせることを念頭に置き業務に合わせたケアにならないよう常にそれが入居者のために行われているか、職員の都合で行われていないか、意識しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者一人一人の生活歴を把握し、好んでいた服やおしゃれを続けていけるようにしている。着やすいものではなく、着たいものを選ぶよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを聞き取り、希望のあったメニューを行事食に取り入れている。お菓子づくりや下準備など調理の手伝いも出来る範囲で一緒に行っている。	利用者の嗜好や食事形態などを把握し調理を工夫しながら、季節感のある食事を提供している。桜餅やぼたもちなどのおやつや差し入れのおやつなどを堪能したり、鮮魚業者から新鮮な魚を入手し食事に提供している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録に残し、食事や水分摂取量の低下や体調面に考慮が必要な時は、補助食品等を提供している。糖尿病の方には過度な摂取にならないよう管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛けや誘導を行い、自分でできる方も仕上げのお手伝いを行う等、口腔内の状態確認や清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを知り、その方にあつた時間で声掛けや誘導を行っている。自分でトイレに行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換を行っている。	排泄のリズムを把握したり、必要に応じて声かけやトイレ誘導の仕方を工夫している。夜間は、ポータブルトイレを併用し排泄の自立支援をおこなっているが、昼間は布などを掛けてプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の滞りがないよう主治医の指示のもと下剤の調整を行っている。水分摂取の少ない方には水分を促したり、回数を増やしたり飲み物を替える等促せるよう工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者のその日の気分やペースに合わせて、曜日や時間を臨機応変に変更、体対応している。失禁等汚染がある時は曜日や時間に関係なく入浴を実施し清潔保持に努めている。	入浴方法は利用者によって異なるが、浴槽にゆっくりと浸かり入浴を楽しまれる方も多く週2回程度は入浴ができるよう支援している。入浴は、本人の希望や必要性によっても柔軟に取り組んでおり入浴を楽しみ、清潔保持ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている。その日の気分や体調、生活習慣に合わせて無理なく過ごせるよう環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や行動、排便や皮膚状態、食事摂取量に変化があれば主治医に報告している。薬の変更等職員で把握できるよう記録に残し、申し送りしている。副作用の情報共有も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの活動等の催し物を取り入れ、今までの趣味活動や楽しんでいたことを把握し、一人一人が役割や活動に生きがいを見出せるよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は難しいが、外の空気に少しでも触れることができるよう、庭に出て体操や運動をしたり、畑を見たり花やキンカンを取ったり、気分転換が図れるよう支援している。	普段は、ホーム周辺の散歩を楽しんでいたが、今は外出を控えている。初詣は、「小野の里神社」という手作りの神社にておみくじを引いたり、玄関前で外気浴やカフェ、ボール遊びに興じるなどして外出ができない中で工夫をしている。外出は、病院受診の際のドライブにて車窓から楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理はホームで行っており、自分でしたいと希望される入居者はおられない。買い物の依頼があった際はその都度購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族より定期的に電話がある方はおられるが、入居者から家族へ連絡の希望がある際は、事前に連絡が可能であるか確認を行っているため、希望のある方電話をかけ会話をされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や装飾を行っている。室温や湿度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。白内障や緑内障の方もおられるため、目に刺激がないようカーテンを閉めたり座席の配置にも配慮している。	玄関エントランスにて来訪者と面談もできる構造になっているおり、生花が飾られ2階階段やエレベーターが配され、2階ユニットへのアプローチになっている。ホールは採光があり、テーブルやソファ、テレビが配置されている。壁には、利用者の作品や行事の写真などが掲示されており廊下も広く掃除が行き届き整理整頓がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングチェアを配置し、座席やテーブルだけでなく、入居者同士でコミュニケーションが円滑に図れるような空間を提供している。窓際から外の景色を眺められるように工夫もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やテレビ、ハンガーラック等持ってきてもらい自宅に近い居室づくりに努めている。希望により床に絨毯を敷いたり、コタツを使用される方もいる。	エアコン、ベッド以外は、本人の使い慣れた物を持ち込み過ごしている。転倒や骨折予防のための方策があり、夜間の安全移動はセンサーライトを活用し安全対策をおこなっている。1階は、掃き出し窓、2階は腰高窓になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室で滑ったり転倒での骨折の軽減ができるよう床にジョイントマットを敷くことで安心して移動ができるようになった方もいる。居室やトイレに目印に花を付けたり夜間はセンサーライトで廊下の移動に配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない